

建設用原材料部門委員会設立8周年を迎えて

社団法人 資源・素材学会
建設用原材料部門委員会
委員長 立松 英信

「建設用原材料」部門委員会は、建設用原材料の評価・利用技術の確立を目的として、1988年4月に(社)資源・素材学会に設立された常設の委員会である。本委員会は本年4月をもって9年目を迎え、去る5月に開催された総会において、山田優委員長と桑原隆司副委員長の辞任が認められ、代わって私と宇野泰章氏(名古屋工業大学教授)がそれぞれ委員長および副委員長に選出された。なお、編集委員長は引き続き山田優氏に担当いただくこととなった。この機に本委員会の現状を簡単に報告し改めて関係各位のご協力をお願いしたい。

部門委員会の活動成果は、会誌(特集号)等を通して公表されているが、本委員会では、委員会の研究成果をはじめ各方面の研究者による建設用原材料に関する成果の発表、情報交換の場として独自の出版を試み、論文報告集「建設用原材料」を通巻で11号まで刊行した。これと並行して、論文報告集「建設用原材料」の文献データベース「JICST」への登録、編集規約の策定・執筆要綱や査読制度の明文化等、投稿論文が研究業績として認められるための諸規範および体制の整備を進めてきた。この間、委員長として尽力いただいた岩崎孝、山田優両氏をはじめ編集を担当された委員に改めて感謝申し上げる。

また、昨今社会的問題として取り上げられる産業廃棄物処理に鑑み、本委員会は、岩石等地下資源の有効利用の観点から、山田優氏を総括代表者とする「コンクリート用骨材のリサイクルシステムの構築」に関する研究開発プロジェクトを計画中である。本プロジェクトの完遂には、材料工学技術はもとより、コンクリートを破碎して骨材を製造する機械技術や利用を図る土木技術など、広範な技術分野を結集することが不可欠である。本プロジェクトへの積極的な参加を期待したい。

本委員会が、建設用原材料の評価・利用技術に止まらず、関連分野や周辺の技術の研究の横断的な情報交換の場として更に発展するため、前記プロジェクトへの積極的な提言や本委員会に相応しい研究課題の提案、論文報告集「建設用原材料」への投稿など関係各位のご協力を切にお願いする次第である。

1997年6月